

## 「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2019年6月3日

所属：教育文化学部 学校教育課程 英語教育コース 4年

氏名：佐藤彩佳

派遣先大学名（国）セント・クラウド州立大学（アメリカ）

在籍身分：留学

派遣期間：約9カ月

渡航年月日：2018年8月19日

帰国年月日：2019年5月10日

### ○派遣先大学における授業等の履修状況

講義名	履修期間	週当たりの講義時間	習得単位数
EAP 202 Reading and Writing II	秋学期	3時間40分	4単位
Teaching ESL: Theories and Methods	秋学期	2時間30分	3単位
Second Language Assessment	秋学期	2時間30分	3単位
Code Switching	秋学期	2時間30分	3単位
Phonology	春学期	2時間30分	3単位
World Religions	春学期	2時間30分	3単位
TESL Methods: Reading and Writing	春学期	2時間50分	3単位
ESL and Culture	春学期	2時間30分	3単位

### ○研究・学習概要及び今後の勉学計画

自身の専攻である教育の授業のほかに、興味のある宗教や音声学の授業も取りました。教育学の授業では、言語習得のプロセスや、それをもとにどのように授業づくりをするべきかなどを学びました。秋田大学での既習事項も多くあり、一層理解を深めることができました。教育関連で、評価に関する授業も取りました。この授業では、英語のテストの作成方法や、作成する際の留意する点について、実際にテストを作成しながら学びました。自分でテストを作成し、クラスメートに問題を解かせ、さらにそのテストを自

己評価するという段階を踏み、評価の基礎知識を身につけることができました。

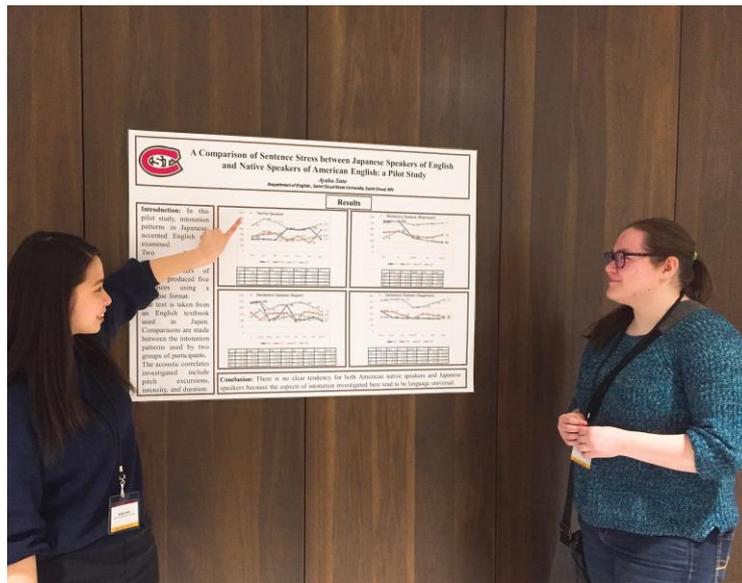
特に収穫が多かった授業は、音声学の授業です。留学前から発音について興味があり、これから取り組む卒業論文でもテーマにしています。この授業では、自身の発話を音声解析プログラムを用いて解析しながら、英語を第二言語として学ぶ学習者のための発音指導について学びました。自分の発音とネイティブスピーカーの発音を様々な音声データから比較し、日本人が苦手とする音や、他国からの留学生が苦手とする音を特定しました。ここで学んだ一番重要なことは、英語の発音で大事なものは、いかに日本語のアクセントをなくすかではなく、いかに分かりやすい発音をするかということです。当たり前のように聞こえますが、ネイティブの発音にできるだけ近づけなければならないと考えていた私にとっては驚きの事実でした。この授業で使用した音声解析プログラムを使用して自身の卒業論文に取り組んでいきたいと考えています。将来英語教育に携わることができた際に、授業で身につけた発音に関する知識を活用したいと思います。

### ○生活面について

現地では、学内の学生寮で暮らしていました。私の寮には、各階に共用のキッチンがあり、料理をする際などに他の寮生と交流をしていました。現地の学生と一緒に日本料理を作ったこともあります。食生活に関しては、現地についてから最初の数日間は学内にある学食を利用していました。しかし、食事代が高額なことや、あまり口に合わなかったこともあり、すぐに自炊に切り替えました。週に一度買い物に行き、一週間分の食べ物を調達し、毎日簡単な料理をして生活していました。日本からの調味料を活用して、日本食に近いものをよく作って食べていました。

### ○その他留学全般にわたる感想

大学1年次、2年次の時に経験した短期の留学とは異なり、自分の時間を大切にした留学生活でした。その一方、地元の小学校に日本文化を紹介するプログラムや、学内の日本人コミュニティー主催のジャパンナイトに参加してパフォーマンスを行ったりと、積極的に日本文化の発信に取り組みました。また、前述のように、授業での学びがとても多く、有意義な留学生生活を過ごすことができました。



学会での発表の様子(本人左)



大学付近で行われたイベントにて(本人中央)

### ○渡航費補助について

経済的に余裕があるわけではない中留学を決めたため、金銭的な援助をいただくことができたのは私にとって本当に大きかったです。ご支援いただき本当にありがとうございました。留学を通して学んだことを生かし、社会に還元していきたいと思えます。